



## 韓国におけるAI技術関連 出願の増大と政府の取り組み

近年、AI（人工知能）技術の急速な進化に伴い、様々な分野において新たなイノベーションを可能にしています。特に、自然言語処理、画像認識、機械学習などの分野での進歩が著しく、これによって新たな特許の創出が促進され、特許出願数は年々増加しています。

2023年における韓国特許庁のAI技術に関する出願動向を見てみましょう。AI技術に関連する特許出願は、前年比約25%増加し、その数は約4万件に達しました。AI技術の国際的な競争も激化しており、韓国企業だけでなく、国外からの出願も増加傾向にあります。

AI技術の特許出願が急増している背景には、いくつかの要因が影響しています。例えば、機械学習、深層学習、自然言語処理などのAI技術の進歩により、新たな技術やアルゴリズムが開発されるなど、技術が進化して普及したことが挙げられます。

産業への影響としては、自動運転車、ヘルスケア、金融、製造業など様々な分野で活用されており、産業のデジタル化や効率化を推進するためにAI技術の特許出願が増加しているようです。

また、企業はAI技術を活用して競争力を強化しようとする動きがあります。新たなアイデアや技術の特許化することで、独自性をアピールし、市場での地位を確立しようとする意欲が特許出願の増加に影響を及ぼしています。

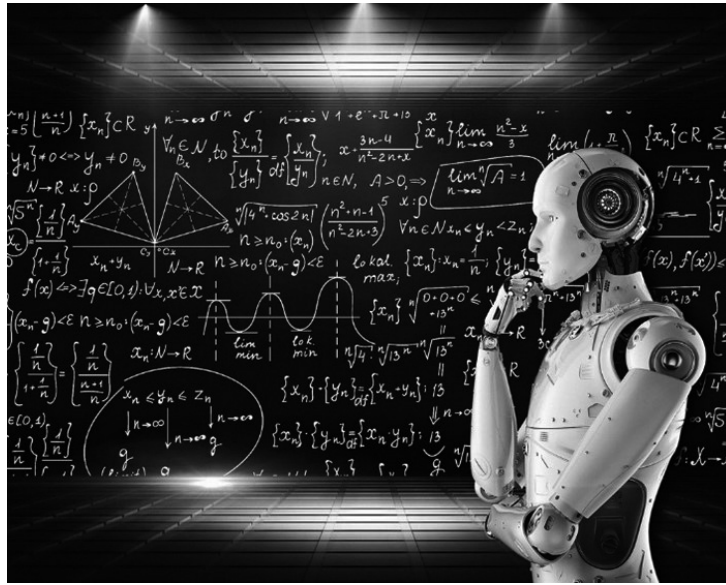
結果として、企業のAI技術への投資と研究開発費への増加へとつながり、新たな技術やアルゴリズムを開発して特許化する動きがさらに活発化するでしょう。

今後の課題としては、AI技術に関連する法的な問題や不確実性が存在するため、特許出願は技術の保護と法的な権利の確立を求め一つの手段とされています。AI関連の特許出願が増加することで、法的な枠組みが整備されることも期待されています。

多くの国々がAI技術を国家戦略の一環として位置づけ、政府支援を行っています。政府の支援により、企業や研究機関はAI技術の研究開発と特許出願を促進する環境が整っています。

このようなAI技術の特許出願の急増により、特許庁は審査体制の適応が求められています。AI技術の創造性や非自明性の評価、既存知識との関連性の判断などが、従来の特許審査とは異なる課題を提起しています。韓国特許庁は、AI技術専門の審査官の増員や専門的なガイドラインの整備、新たな評価基準の検討などを通じて、特許審査の質を向上させる努力を行っています。

また、2020年に韓国ではAIの倫理的な使用と発展を促進するために「人工知能倫理基準」が制定され、AI技術の適切な使用と社会的な影響を調整するために設計されています。以下に、その主な内容を要約します。



### 1. AI倫理原則の明確化：

AI技術の倫理的な原則を明確に定義し、個人のプライバシー保護、公正な競争、人権の尊重などが含まれています。AI技術の開発や利用においてこれらの原則を遵守することが求められています。

### 2. AI倫理委員会の設立：

AI倫理委員会はAI技術の倫理的な側面を監督し、政策提言やガイドラインの策定などを行います。委員会はAI技術の発展が倫理的に行われることを確保する役割を果たします。

### 3. データ利用とプライバシーの保護：

AI技術に関連するデータの収集、利用、保管に関するルールが規定されています。特に個人情報保護に配慮し、データの収集や利用に際しては適切な許可が必要とされています。

### 4. AI技術の透明性と説明責任：

AIシステムの意思決定プロセスが透明で説明可能であることを求めています。人々はAIの判断がどのようになされるのかを理解し、説明が必要な場合には説明を求めることができるようになることが重視されていま

す。

### 5. 教育と人材育成の支援：

AI技術の普及と人材育成を支援するための教育プログラムや研究開発の推進を規定しています。AI技術に関する教育の普及を通じて、多くの人々がAI技術を理解し活用できる環境が整備されることが狙いです。

上記「人工知能倫理基準」は、AI技術の倫理的な側面を重視し、適切な規制とガイドラインを確立することを目指したものです。この法律に基づいてAIの発展を進める一方で、個人の権利と社会的な側面を保護することが意図されています。

#### 筆者紹介



#### 柳鍾宇 (ユ ジョンウ)

GIP Korea代表弁理士。ソウル大学電気工学部を卒業。2009年弁理士登録。弁理士になる前は(株)LGディスプレイで設備購買及び技術営業の日本担当を務める。

前職の特許事務所では、最初は(株)サムソンの特許明細書作成/中間処理/外国出願などを行い、後に日本企業の韓国出願を担当。趣味はゴルフ。